

リトアニア共和国ヴィータウタス・マグヌス大学人文学部との間に部局間学術交流協定が締結されました。

#### 【ヴィータウタス・マグヌス大学について】

リトアニアはバルト三国の一つですが、これまでバルト諸国と大阪大学との交流はなく、今回の協定が初となります。さて、1922年創立のヴィータウタス・マグヌス大学 Vytautas Magnus University (VMU) はリトアニアのカウナスにあります。カウナスは、かつてヴィリニウス（現首都）がポーランドに占領されていた時期、首都としてリトアニアの中心となった都市であり、現在でも第二首都の地位を保っています。第二次大戦中、杉原千畝がこの地に日本領事として赴任し、多くのユダヤ人に旅券を発行してその命を救ったことでも有名です。この領事館は今でも「スギハラ・ハウス」として残されています。そしてまさにその場所に VMU の日本研究センター（現アジア研究センター）が設立され、現在ではリトアニアにおける日本研究およびアジア研究の拠点の一つとなっています。本協定の VMU 側のコンタクトパーソンは、センター長のオーレリウス・ジーカス氏で、天皇陛下がリトアニアを訪問された際には通訳を務められたほど日本語・日本文化に造詣の深い方です。

VMU には、およそ学部学生 7000 人、修士課程学生 2000 人、博士課程の学生 250 人が在籍し、約 420 の英語で行われるコースを有しています。また 28 カ国と 77 のプログラムを提携し、この 10 年で 161 大学とエラスムス・ムンドゥスプログラムによる学生の交換留学を行っています(2012年9月現在)。2012年リトアニア国内の大学ランキングではヴィリニウス大学に次ぐ2位の位置を占めています。

今後双方の間で、ヨーロッパ研究やアジア研究、さらにはバルト地域の言語や文化、社会、歴史などの研究領域において、幅広い交流がなされることを期待しています。

#### 【協定締結まで】

2012年1月に VMU 人文学部長のイネタ・ダバシンスキヤネ 教授、アジア研究センター研究員の高馬京子氏（本研究科修了生で今回大きな役割を果たしていただきました）らがヨーロッパ連合のプロジェクトの一環で、日本との協定の可能性を探るために言語文化研究科を訪問し、木村茂雄研究科長、中直一副研究科長、北村卓と協議の結果、両部局間で協定を進めることに同意しました。そして2012年10月25日、北村が同大学を訪問し、木村研究科長が署名した協定書にダバシンスキヤネ学部長の署名を頂いて協定締結が完了しました。学長館（かつての大統領府）で開催された調印式には在リトアニア日本大使館の白石和子大使の臨席も賜り、祝辞まで頂戴しました。大使はその日の午後同大学で開催される全国日本語弁論大会に参加されるために来られたのですが、ご多忙にもかかわらず午前の調印式にも快く出席してくださいました。北村も午後の弁論大会に招かれ、光栄にも審査委員長の大役を務めさせていただきました。参加者は20名ほどでしたが、きわめてレベルが高く、日本語母語話者の教師がほとんどいない状況にもかかわらず、熱心に日本語を学習し、日本の文化を知ろうとしている若者たちの意欲に深い感銘を受けた次第です。

（コンタクト・パーソン 北村 卓）